



はぎわら陽子 木崎としゆき



議会報告 2021年
佐倉市議会議員団 春季号

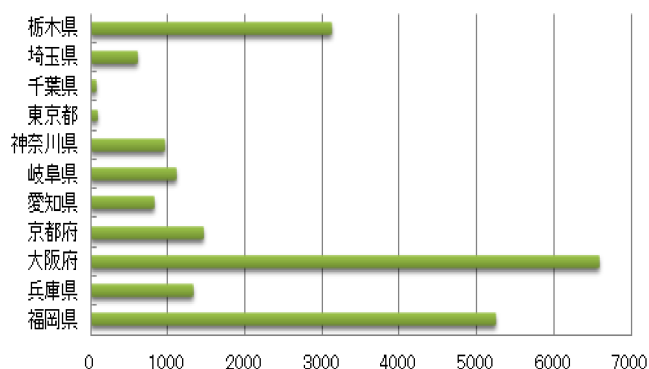
ワクチン頼みは
不安定

もっと積極的なPCR検査を! もっと早く!

2度目の緊急事態宣言が解除されました。リバウンドを抑えるためには検査の拡大が何より大事です。

国民の声と共産党の繰り返しの要請を受け政府は4月中に宣言解除の11都府県で1日5千件、ゴールデンウィーク後には1万件の無料検査を行なう意向を示しました。しかし方針は徹底せず、検査は1日わずか数百件にとどまっています。(グラフ参照)

モニタリング検査の実施状況<内閣府>
自治体別配布数(2/22~3/28)



図書館建設地盤調査

レーザー探査せず、

何が起こるか、わかりません!



佐倉図書館建設工事で、地下掘削中に昔の印旛支庁時代の無線塔の基礎部分が見つかりました。撤去工事に約860万円の追加費用が前田建設に支払われ、工事の振動によって古民家の玄関引き戸は隙間ができています。

(3面へ続く)

景気悪化を反映し、
市民税14億円減少

令和3年度の市税収入は14億円の減少を見込んでいます。経費削減のため、各部署の予算要望と正規職員を削減し、業務委託の拡大(P2参照)が目立ちます。

コロナ禍で市民の収入が大きく落ち込むと予測しながら、介護保険料の値上げ(2面参照)、水道料金の値上げ(3面参照)に向かうのか。不要不急の事業見直しこそ行なうべきです。

介護保険料 いま値上げ!?

市の介護保険準備基金(貯金)は千葉市・船橋市など大都市並みの25億円もある中、4月から保険料の基準月額を4500円から4950円に値上げします。

コロナ禍で体調を崩しがちな高齢者に、保険料の値上げは大きな負担です。準備基金は今こそ被保険者に還元し、保険料、利用料を引き下げて、健康寿命の延伸に貢献すべきです。

佐倉市は他市に比べて要支援率が10%も高く、利用者に厳しいことから、共産党市議団は介護認定の改善を求めています。



消防隊員

コロナ関連救急搬送手当UP 共産党が貢献

佐倉市・八街市・酒々井町の共産党議員団は、昨年12月24日、佐倉市にある消防本部を訪問。次長、参事と懇談し「消防署職員・救急隊員のコロナ患者の搬送手当を、人事院の通達どおり増額支給するように」求めました。

次長からは「前向きに検討します」と回答があり、3月8日の佐倉八街酒々井消防組合に図られ、昨年4月にさかのぼって1搬送につき4千円が支給されることに決まりました。

住民のいのちを守り最前線で働く消防職員・隊員の処遇改善に向け、さらなる取り組みが必要です。

職員削減、業務委託の拡大は本末転倒

令和3年度予算では、職員定数を59人も削減。「実際の在勤職員は、定数削減後より少ない」と市は言い訳をしますが、ならば定数削減の意味はなく、過労死ラインを超える労働時間、毎年あとを絶たない長期欠勤職員を省みないもの。コロナ禍、業務が煩雑で大変な職員の増員を求めました。

「いのちの窓口」納税催告事務まで 民間業務委託!?

新たに、納税催告事務の業務委託が始まります。この事務は「市民の暮らし困窮の発見」につながり、極めて重要です。各種減免制度や福祉サービス利用へ促す専門性も必要で、民間委託は「公務」の放棄に他なりません。

税金の節約にならず

水道部窓口業務委託も開始。5年間で約4億7300万円(予算)、10人の民間スタッフ配置予定で、正規職員を雇用する予算とほぼ変わりません。

しかし、委託会社が雇用したスタッフに支払う賃金は、市との契約金額の半額にもならないのが通例です。市は、採用や労務管理等、煩雑な業務から解放されますが、民間委託会社には巨額の利益が発生する仕組み。これが自公政権「民活」の正体です。

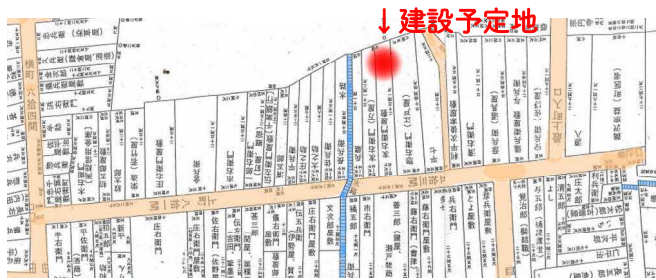
西田市政

CO²削減に具体策なし

異常気象を多発させる気候変動の原因となるCO²削減は世界共通の課題です。地球温暖化防止は待ったなしの状況で、政府は世論に押され2050年までの脱炭素を掲げました。

共産党は自治体としての具体的施策を求めましたが、市長は情報収集に努め対応すると答えるのみで具体策は示しませんでした。

図書館建設地の新町は 谷と水路のある地形



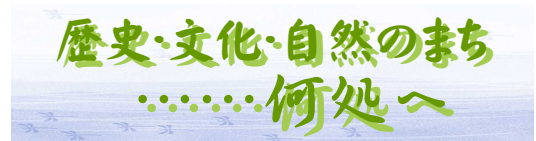
佐倉新町絵図(1848年)～佐倉市史巻二～

市が発行する「佐倉市史研究」には新町の賑やかな町並みと東西の水路が描かれた江戸時代の図が載っています。現在、谷は埋め立てられています、水路は今も残っています。

図書館建設地の南北は急な崖で周辺には民家が多数あり、新町の中心地を10㍍も掘って図書館を建てるには慎重な調査が必要ですが、費用のかかるレーザー探査はしていません。地質調査の結果、建設地の地下25㍍までは軟弱地盤と判明し、長い杭基礎を打つ工事が必要で、建設費用がかさみます。

しかし難しい地下工事を請負う前田建設の入札は3億5千万円も予定より安い契約で、

堅い地層までしっかりと杭基礎が打たれるか疑念があります。工事中の影響以上に今後の図書館利用者の安全を担保できるのか、不安が拭えません。

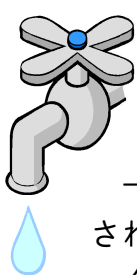


広いスペース（2万平米）の市民体育館先の市営住宅跡地ならば建設費も安く、安全で駐車場も充分確保でき、歴博に続く文教地区として最適地です。

市が発行する「佐倉市史研究」は現在33号。令和2年度はコロナ禍で発行せず、来年度から市史編纂の予算も体制も縮小されます。

図書館の書籍購入費は毎年少しずつ減らされ、5年前まで市内全館で4000万円でしたが、令和3年度は3457万円です。小中学校の図書予算も小学校は1校19万円、中学校は1校40万円に、それぞれ1～2万円（前年比）の減額です。

子どもたちを豊かにし、市民の暮らしを彩る図書館の予算は大事です。



水道料金の 値上げストップ！

一昨年、下水道料金が33%も値上げされ市民の暮らしを圧迫しています。今度は上水道料金の値上げが検討され、来年度から7.4%の値上げを見込んでいます。

人口減少や節水型商品の普及で水の需要は減少しているのに、八ッ場ダムの完成後、市が購入する表流水(利根川の水)の費用は3億円も増加。この増

八ッ場ダム	8億4975万円
霞ヶ浦導水	4億5835万円

市の支出額(出資金・負担金)

加分を市民の負担とするのは納得できません。

霞ヶ浦導水事業から撤退し、 安心・安全な美味しい水を

市は水源確保事業としてさらに、霞ヶ浦導水事業にも参加しています。漁業権の問題が難航し、見通しの立たないこの事業は1900億円から2395億円へと総事業費が増加。多くの水道企業組合や自治体が事業から撤退しています。

この事業が完成すると、市の水道水に占める地下水の割合は現在の6割から3割に下がります。

美味しい水を飲み続けるためにも、これ以上の値上げを止めるためにも、霞ヶ浦導水事業から撤退する決断を市長に求めました。

大会派のパフォーマンス



市民の提案はことごとく否決

「コロナ禍にある厳しい暮らしを、なんとかしたい」市民からの多くの請願や陳情が、議会に寄せられました。請願や陳情は、市民の願いを市議会として表明するものです。市民に寄り添う議員か？が問われます。

○ 賛成 × 反対 △ 保留

	日本共産党	市民ネット	新社会党	さくら会	自由民主党	公明党
請願：75歳以上の医療費窓口負担について原則1割負担の継続を	○	○	○	×	×	×
請願：安全・安心の医療・介護の実現と国民のいのちと健康を守る	○	○	○	×	×	×
請願：新佐倉図書館建設を中止し予算をコロナ対策に充てること 近隣住民の被害を補償し、図書館計画を見直すよう求める	○	○	○	×	×	×
請願：携帯電話等中継基地局設置に関する条例の制定を求める	○	○	○	×	×	×
陳情：過酷な「新コロナ禍」で年金引き下げは行わないよう求める	○	○	○	×	×	×
発議3号：令和3年度市議会政務活動費の特例に関する条例制定	△	△	△	○	○	○
発議4号：新型コロナウイルス感染症対策の一層の拡充を	△	△	△	○	○	○
発議5号：所得が低い人ほど恩恵のある消費税5%へ減税を	○	○	○	×	×	×

※発議は議員からの提出議案



「コロナ対策・政務活動費削減」提案に6名の議員、保留して退席

議会活動に必要な政務活動費を1人10万円削減する議案をさくら会・公明党・自由民主党くらが共同提案し、共産党を含む6名の議員は保留の意思表示をしました。

保留の理由は第一に、政務活動費は市民への議会報告や市民からの意見の聴取、様々な調査研究のための費用であること。コロナ対策に充てるというのであれば議員の歳費（給与）を削減すべきです。昨年8月議会で「議員の歳費10%削減分と市民からの寄付を合わせコロナ基金にする」議案を10人の議員（共産党を含む）が提案した時に、大会派は揃って反対しています。

「削減するのは政務活動費ではなく、議員の給与ではないか？」と多数の議員が説明を求めましたが、提案者はまともに答えていません。（議会HPに録画）

共産党は絶対に反対ではなく、削減するなら、まずは議員給与から、という立場で保留としました。

無料 法律・生活相談会

4月17日／5月15日／6月19日

毎月第3土曜日 午前10時より

会場 ひだまり（京成佐倉駅北口）